チャレンジ工房news

第 105 号　2019 年 12 月発行

発行先　パソコン工房チャレンジ

編集責任者　　曲　圭子

工房の日々　～それぞれの研修風景～

あっという間に、今年も残り１ヶ月・・・

今年は、スタッフや所員さんの入れ替わりがあったりして、いつもよりか月日が過ぎるのが短く感じた気がします。

年配の所員さん中心に、11 月末より来年の干支「ねずみ年」の年賀状を市販の２０２０年用年賀状素材集をみながら､「あぁでもないこうでもない」と言いながら作っておられます。

趣味のサッカーをしている「ねずみ」のイラストばかり取り込んで、年賀状を作られる所員さんもいれば、元大工職人だった所員のｋさんは年賀状の宛名面の細かい印刷の位置までこだわられていたり、またゲームが好きなＢさんは、イラストレーターで好きなアニメゲームのねずみのキャラクターを描いて年賀状として仕上げられるなどのそれぞれの今までの人生が溢れかえった思い思いの年賀状を作られています。

毎年、この季節所員さんたちが年賀状作りをされると、「もう師走なんだ」とつくづく実感します。

元大工職人だった工房最年長のＫさんは「長年営んできた工務店の仕事もやっと一息ついたし、これから少しずつ先祖代々からの家族のことを自分なりに、色々調べてわかりやすく家系図や家族史を作って子孫に残すことができれば」と最近、家系図や家族史を湖って作られておられています。

「孫たちにも先祖がどんな人たちだったのか、分かるように写真付きの家系図を作りたい」ということだったので、自前のプリンターのスキャナーで、家族写真を１枚１枚丁寧にスキャンされ、パソコンに取れ込まれ､「ペンイト」でトリミングするなどの画像編集を行い、あらかじめ Excel で作成していた家系図に編集されていた写真を丁寧に貼り付けておられていました。

かなり時間と根気がいる作業でしたが、完成して印刷されたときは嬉しそうに「おぉできた・・・これで、わしも人生、もう悔いはないわ」と笑われて冗談を言われていました。

本当にご高齢になって、色んな事にパソコンで挑戦されようとするＫさんの姿には頭が下がります。

これからもスタッフ一同、Ｋさんのパソコンでの色んなチャレンジを応援させてもらえることができたらと思っているので、いつまでもお元気でパソコンライフを満喫して貰えたらと思っています。

今後の予定

12/16(月)　クリスマス会

12:00～14:00

※今年も忘年会を兼ねてクリスマス会を開催します。

軽食や楽しいビンゴゲーム等を用意して所員の皆さんの参加お待ちしております。

12/28(金)～1/5(日)　冬期休暇

※年明けの研修は、1/6(月)からです。

工房入り口のシャッター電動化になりました・・・

当工房も来年の４月で１０年目に入ります。

立ち上げ・開所当時は、立位が取れて動くことができる精神障害や脳性麻痺の障害をもつスタッフがいてたので、「この工房ボタン１つで、鍵も重たいシャッターも開け閉めすることができたらいいのに」と思いつつ、そんなに必要に差し迫ってなかったので、予算などの関係で先延ばしにしてきました。

昨年の暮れから前スタッフが体調を崩され、退職されたり、現スタッフのＡさんが体調とともに当工房のスタッフとして定着して貰えるようになるまでの半年ほどの間、広瀬代表理事が週に２回草津から来てくれる以外の日は、私１人で勤務することが多く、その間、朝・夕の鍵明け・鍵閉めは所員さんや工房の事情を知って頂ている地域の方に、無理を言って助けて貰ったり、代表理事の知り合いの協力者の方に、都合のいい日に応援で毎日の清掃も兼ねて晩の鍵閉めに来て貰ったりしていました。

また私もやり残している事務仕事があっても、鍵閉めに来てくれる人に合わせて退勤しないといけなかったので、3 月の年度末の決算時は毎日山のような会計書類を自宅に持ち帰って残業する日々が続きました。

そんなこともあり、「もう鍵を開け閉めしてくれる人がいないと自分の職場に出入りすることができないのは、つらい。」と代表理事に率直に私の気持ちを伝え、相談しました。

ちょうど、その頃「神戸やまぶき財団」が助成金の助成先を公募されて、「重度障害を持つスタッフの職場環境改善のためのシャッター電動化改修事業」という趣旨で応募申請させて頂き、今回神戸やまぶき財団様に 55 万助成して頂き、私の開所当時からの念願だった「リモコンのボタン１つで鍵の開け閉めができる」電動式のシャッターに取り換えることができました。神戸やまぶき財団様、補助支援、本当にありがとうございます。

お陰様で、鍵開け・鍵閉めの心配がなくなり、自分の仕事の段取りで動くことができるようになり、仕事の効率も良くなったので、神戸やまぶき財団の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の「シャッターの電動化の工事」が私の職場環境改善の目的だけではなく、次世代の工房を任ってくれるパソコンの腕がある重度の障害をもつ後輩たちの雇用につながることを確信しています。

最後になりましたが、神戸やまぶき財団の方々をはじめ、今回のシャッターの改修工事でお世話になった工務店の方々にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

尼崎障害者センター代表理事　　広瀬　徹

パソコン工房チャレンジ所長　　曲　圭子

電動式シャッターのリモコン